令和2年度 十勝農試定期作況報告 秋まき小麦

月	作況	事由
10月20日	やや不良	播種期、出芽期はともに平年より1日早かった。草丈は平年より長く、葉数、茎数はともに少ない。 以上のことから、現在の作況はやや不良である。
5月20日	良	根雪終日は平年より13日早く、雪腐病の発生はわずかで、越冬状況は良好であった。起生期は平年より9日早く、起生期の茎数は平年より多かった。起生期以降の天候は概ね順調に推移したため生育は旺盛となったが、5月中旬の干ばつにより草丈は抑制された。このため平年に比べて草丈はほぼ平年並で、茎数は多い。 以上のことから、現在の作況は良である。
6月20日	平年並	5月下旬から6月中旬まで平年より降水量が少なく、干ばつ傾向で推移したため、分げつの淘汰が進んだ。出穂期は平年より1日遅く、草丈、茎数はほぼ平年並である。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
7月20日	平年並	稈長は平年よりやや短いが、穂長は平年よりやや長く、穂数は平年並である。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
8月20日	やや良	6月上旬が高温・少雨に経過したことから開花は良好で、粒数は確保できた。一方、6月下旬と7月中旬が低温・寡照に経過したため、登熟は不良となった。このためリットル重、千粒重は平年より小さく、2.2mm篩上率もやや低いが、子実重は平年比108%と多収であった。 以上のことから、現在の作況はやや良である。
11月20日	**やや良**	播種期、出芽期はともに平年より1日早く、越冬前の茎数は平年より少なかったが、必要な生育量は確保した。雪腐病の発生はわずかで、越冬状況は良好であった。起生期以降の生育は順調であったが、5月中旬から6月中旬は干ばつ傾向となったため、生育量はほぼ平年並となった。出穂期は平年より1日遅い6月4日で、開花状況は良好であった。6月下旬と7月中旬は低温・寡照に経過し、登熟は不良となった。このためリットル重、千粒重は平年より小さく、2.2mm篩上率もやや低かった。一方、開花状況が良好で粒数は確保できたことから、子実重は平年比108%と多収であった。検査等級は1等であった。 以上のことから、本年の作況はやや良である。

生育データ

品種名		きたほなみ		
項目/年次		本年	平年	比較
播種期(月日)		9.20	9.21	△ 1
出芽期(月日)		9.27	9.28	△ 1
起生期(月日)		3.27	4.5	△ 9
出穂期(月日)		6.4	6.3	1
成熟期(月日)		7.21	7.24	△ 3
葉数(枚)	10月20日	3.4	3.6	△ 0.2
	11月15日	5.4	5.6	△ 0.2
草丈(cm)	10月20日	22.4	21.3	1.1
	5月20日	45.0	47.1	△ 2.1
	6月20日	84.7	87.6	△ 2.9
茎数(本/㎡)	10月20日	427	538	△ 111
	11月15日	1,165	1,402	△ 237
	起生期	1,901	1,773	128
	5月20日	2,171	1,175	996
	6月20日	657	676	△ 19
成熟期	稈長(cm)	74.0	79.8	△ 5.8
	穂長(cm)	9.2	8.5	0.7
	穂数(本/㎡)	667	665	2
子実重(kg/10a)		761	703	58
同上対平年比(%)		108	100	8
リットル重(g)		800	836	△ 36
2.2mm篩上率(%)		93.1	94.6	△ 1.5
千粒重(g)		37.3	41.1	△ 3.8
検査等級		1	2上	−

備考1)平年値は前7か年中、平成29年収穫(豊作年)、28年収穫(凶作年)を除く5年平均。年次は収穫年。

備考2)△は平年より早、少、短を表す。

耕種概要

一区面積(㎡)	区制	前作物	畦幅(cm)	播種日(月日)	播種量(粒/㎡)
9.6	4	緑肥トウモロコシ	30	9.20	255

肥料名	施用量(kg/10a)	要素量(kg/10a)				備考
		N	P_2O_5	K_2O	MgO	
S502	80	4	16	9.6	4	基肥
硫安	38	8				追肥(4/7)
硫安	19	4				追肥(5/21)